



第121回 品質管理シンポジウム 開催要領

テーマ：日本の産業競争力向上を実現する
これからの品質経営
～品質経営のパラダイムシフトの加速と
新たな山脈づくり～

2026年6月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

品質管理シンポジウム開催趣意書

日科技連は、創立以来その社会的使命にかんがみ主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目をあびるまでに成長いたしており、まことにご同慶の至りであります。

これは、品質管理のもつ特質が現代のダイナミックな企業経営の要請にまったく合致したものであることが第一の原因と考えられますが、その特質は必ずしも品質管理の先験的な本質として備えられていたものではなく、いわば実践理念として、これを適用・活用することによって品質管理自身の特質が開発されてきたものであり、また、されていくものでありましょう。

当初の生産部門における統計的手法偏重時代から品質管理が経営に直結して、経営内諸機能のそれぞれの目的と運営が品質を中心に統合し、企業目的に直接貢献しようとする今日の品質管理の実情への推移は、品質管理が実践理念としてこれから実施者、推進者の手によって開発され進歩するものであることを如実に物語っております。

しかしながら生産と経営の手段がますます高度化し、一方品質問題が、企業の製品責任に関連してますます重要な中心課題となりつつある今日の情勢において、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されると同様に、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的で開催いたしますのは、大要上記の趣旨によるものであります。この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました当日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

本シンポジウムに対し、学界ならびに産業界の有志諸氏が広く参加者源泉に加わり、本シンポジウムの発展を見守られ、国際的な存在に育てられるように惜しみなく忠言と鞭撻を寄せられることを希望してやみません。

一般財団法人 日本科学技術連盟

第121回品質管理シンポジウムのメインフレーム

| | |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別講演 | 変革期におけるリーダーシップと組織マネジメント ～すかいらーくにおけるブランド再生と戦略的転換、それを支えるサービス品質～ (株)すかいらーくホールディングス 代表取締役会長 CEO 谷 真 氏 |
| 基調講演・オリエンテーション | 日本の産業競争力を創生する「これからの品質経営」 (一財)日本科学技術連盟 理事長 佐々木真一 氏 |
| 講演 1 | SDGs 経営におけるグローバル調達管理 ～バリューチェーン・マネジメントの実践～ 麗澤大学 経営学部 学部長・教授 近藤 明人 氏 |
| 講演 2 | 「一瞬も一生も美しく」資生堂が考える価値の品質 ～価値創造・価値伝達、そして、人～ (株)資生堂 執行役 チーフイノベーションオフィサー グローバルテクノロジーオフィサー 東條 洋介 氏 |
| 講演 3 | 老舗企業の経営革新 (株)龍角散 代表取締役社長 藤井 隆太 氏 |
| 講演 4 | 価値創造型品質経営 ～富士フィルムと富士フィルムビジネスイノベーションの変革～ 富士フィルムビジネスイノベーション(株) 代表取締役社長・CEO 浜 直樹 氏 |

【ご確認ください！】品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

- 品 質・・・顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証・・・顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック・・・価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック・・・価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何かできれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。
- コト価値の考え方・・・顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。
提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客様のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。
つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第121回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：日本の産業競争力向上を実現するこれからの品質経営
～品質経営のパラダイムシフトの加速と新たな山脈づくり～

開催期間：2026年6月4日(木) 14:00～ 6月6日(土) 12:00

会場：大磯プリンスホテル

| 月日 | 時間 | 科目(講演テーマは仮) | 講演者(敬称略) | ライブ 視聴 | 見逃し 配信 |
|-------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------|-----------|
| 6月4日(木) | 14:00～15:10 | <特別講演> 変革期における リーダーシップと組織マネジメント ～すかいらーくにおけるブランド再生と戦略 的転換、それを支えるサービス品質～ | 谷 真 (株)すかいらーくホールディングス 代表取締役会長 CEO | 有 | 有 |
| | 15:10～15:30 | <質疑応答> | | | |
| | 15:30～15:40 | 休憩 | | | |
| | 15:40～16:20 | <基調講演・オリエンテーション> 日本の産業競争力を創生する 「これからの品質経営」 | 佐々木 眞一 (一財)日本科学技術連盟 理事長 <121QCS 主担当> | 有 | 有 |
| | 16:20～16:30 | <質疑応答> | | | |
| | 16:30～16:45 | 日科技連事業紹介 | | | |
| | 16:45～18:30 | チェックイン・休憩・夕食(提供時間:17:00～19:30) | | | |
| 18:30～20:00 | GD(1)/談話室 | | | | |
| 6月5日(金) | 8:30～8:40 | 主催者挨拶 | 小野寺 将人 (一財)日本科学技術連盟 専務理事 | | |
| | 8:40～9:30 | <講演1> SDGs 経営におけるグローバル調達管理 ～バリューチェーン・マネジメントの実践～ | 近藤 明人 麗澤大学 経営学部 学部長・教授 | 有 | 有 |
| | 9:30～9:40 | <質疑応答> | | | |
| | 9:40～9:45 | 入替(5分) | | | |
| | 9:45～10:35 | <講演2> 「一瞬も一生も美しく」 資生堂が考える価値の品質 ～価値創造・価値伝達、そして、人～ | 東條 洋介 (株)資生堂 執行役 チーフイノベーションオフィサー グローバルテクノロジーオフィサー | 有 | 有 |
| | 10:35～10:45 | <質疑応答> | | | |
| | 10:45～10:55 | 休憩(10分) | | | |
| | 10:55～11:45 | <講演3> 老舗企業の経営革新 | 藤井 隆太 (株)龍角散 代表取締役社長 | 有 | 有 |
| | 11:45～11:55 | <質疑応答> | | | |
| | 11:55～12:45 | 昼食(50分) | | | |
| | 12:45～15:15 | GD(2) | | | |
| | 15:15～15:30 | 移動 | | | |
| | 15:30～16:20 | <講演4> 価値創造型品質経営 ～富士フィルムと富士フィルムビジネス イノベーションの変革～ | 浜 直樹 富士フィルムビジネス イノベーション(株) 代表取締役社長・CEO | 有 | 有 |
| | 16:20～16:30 | <質疑応答> | | | |
| 16:30～16:45 | 移動 | | | | |
| 16:45～18:15 | GD(3) | | | | |
| 18:15～18:30 | 休憩 | | | | |
| 18:30～19:30 | 夕食(パーティー) | | | | |
| 19:30～20:30 | 談話室 | | | | |
| 6月6日(土) | 8:30～10:00 | GD報告(10分×8班 ※予備10分) | | | |
| | 10:00～10:15 | 休憩 | 司会:佐々木 眞一 報告:各班リーダー | | |
| | 10:15～11:35 | 総合討論 | | 有 | 有 |
| | 11:35～11:50 | 第121回 品質管理シンポジウム まとめ | 佐々木 眞一 | | |
| | 11:50～12:00 | 次回(第122回)品質管理シンポジウム案内 | 122QCS 主担当組織委員 | | |
| 12:00～ | 昼食・解散 | | | | |

※組織名・役職は、2026年3月現在の表記になっております。
※今回より開始時刻が14時からとなります。ご注意ください。

第121回品質管理シンポジウム(121QCS) グループ討論

121QCS グループ討論

GD テーマ、趣旨と論点

*敬称略

事業戦略策定プロセスにおける経営トップの役割

細谷 克也(有品質管理総合研究所 代表取締役所長), 尾本 勝彦(元パナソニック(株) 品質・環境本部 本部長)

第1班

力強く品質経営を実践していくためには、顧客や社会が潜在的に求めている新たな価値を見極め、自社の強みを活かした事業戦略を構想し、着実に実行していくことが不可欠です。その際、既存事業の延長線上にとどまるのではなく、自社独自の「登るべき山」を明確にしたうえで、新たな価値を創出する戦略を織り込むことが重要となります。

このような事業戦略を策定するプロセスにおいては、経営トップが強く関与し、組織横断的な議論を促進しながら、バリューチェーン全体を俯瞰した意思決定を行うことが求められます。加えて、生成AIによる市場変化の予測やDXの活用など、新たな手法を戦略策定に取り込む視点も、今後ますます重要になると考えられます。

第1班では、短期的な利益の追求にとどまらず、顧客ニーズの発掘や社会課題の解決を通じて、持続的な価値共創を実現するために、事業戦略策定プロセスにおいて、経営トップはどのような役割を果たすべきかについて議論します。

論点

- ① 新たな価値創出をするための事業戦略策定プロセスにおいて、重要な要素は何か。既存のプロセスをどのように変革すべきか。
- ② 事業戦略策定プロセスにおいて、経営トップはどのような役割を果たすべきか。また、そのために経営トップに求められる資質とは何か。
- ③ 中小企業やサービス産業において、事業戦略策定プロセスにおける経営トップのあるべき姿は何か。あわせて、現状の課題とその対応策は何か。

顧客価値共創事業の推進を阻害する要素と対応の方向性(戦略策定プロセスを中心に)

光藤 義郎(一財)日本科学技術連盟 嘱託), 堤 雄亮(株)ペイカレントコンサルティング シニアエキスパート)

第2班

VUCAの時代、モノやサービスを単独で販売する従来型ビジネスモデルでは、何れ価格競争に巻き込まれ、レッドオーシャン地獄に嵌まっています。そこで、新たなマーケットを創造し、競合のないブルーオーシャン事業を展開する戦略として、顧客価値共創型ビジネスモデル(モノやサービスの機能を活かしつつ、顧客の将来的Do-ニーズに応える新たなコトを顧客と共に共創し、顧客に生ずる新たな価値を積極的に保証していくとする事業戦略)をQCSでは提唱してきました。(⇒大観宣言)

しかし、従来型ビジネスモデルに慣れ切った組織において、顧客価値共創事業を展開しようとしても、そこにはスムーズな事業活動を阻害する様々な障壁や壁が存在することは明らかです。逆に言えば、それらの推進阻害要因を除去することが顧客価値共創事業を成功に導くKFS(Key Factor for Success)になってくるでしょう。

そこで、第2班では、特に戦略策定プロセスに焦点を当て、各社の実践例(成功例と失敗例)を共有しながら、右記の3つの論点について議論していきたいと思えます。

論点

- ① 顧客価値共創事業における推進阻害要素にはどのようなものがあるか。
- ② その要素を取り除くためには、どのような施策を取る必要があるか。
- ③ その施策を具現化していくためには、どのような組織運営上の要件/条件が求められるか。

バリューチェーン構築の観点での機能間連携調整プロセス

米岡 俊郎(株)P&Qコンサルティング 代表取締役), 廣田 好彦(Sky(株) エグゼクティブ・アドバイザー)

第3班

新しい顧客価値創造が問われる現在、各社において顧客とともに求める価値(バリュー)、それを追求するバリューチェーン、そしてそのバリューチェーンを担う内外のプレーヤーが変化してきています。また、その変化したバリューチェーンの運営・強化には、構成プレーヤー間の「機能間連携調整プロセス」の時代に即した最適な方法が必要です。第3班では、GD参加メンバーの組織における、近年のバリューチェーンの変化、及びそのプレーヤーの変化の実例・事実を挙げてもらい、各社で、具体的にどのようなバリューチェーンの構築をブラッシュアップされているかを議論します。

例)自動車業界のバリューにおいて

旧:製品の保有を中心に、保険、金融、用品、補給部品、サービス。

新:プラスして、カーシェア、カーナビ、充電ネットワーク、バッテリー二次利用、物流/リユースなど、バリューチェーンのプレーヤーも変化の中で多様化。

また、その新しいバリューチェーンの運営・強化を進めるに当たり、プレーヤー間(機能間)の連携プロセスにおいて、どのような問題や困りごとが発生し、苦労しているか、また、その解決策として、具体的にどのような対応策やテック/ソリューションが導入されているかを参加メンバーから事例紹介してもらい議論します。

例)各機能間での各機能で収集される情報のシェア、透明性、アップデートの仕組み、機能間での問題解決チームのタイムリーな設定のやり方の工夫など。

論点

- ① 新価値創造の時代、自社のバリュー、バリューチェーン、そのプレーヤーはどのように変わってきているのだろうか。
- ② 新しいバリューチェーンにおいて、その運営や強化のためにプレーヤー(機能)間の連携調整プロセスにおける具体的な問題・困りごととその解決策・解決する仕組みにはどのようなものがあるか。

機能間連携調整プロセスに沿って事業の有機的運営を実現する方針管理や品質保証体系の進化

中條 武志(中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授), 高倉 宏(トヨタ自動車九州(株) TQM推進室 主査)

第4班

機能間連携調整プロセスは、顧客価値を実現するために部門や組織を横断して連携・調整を行う仕組みです。今日ではバリューチェーンやエコシステムに多様なプレーヤーが参画し、顧客自身もその一部を担うため、価値の共創に向けた連携・調整の複雑さ・難しさが従来に比べて格段に増大しています。利害の相反や過去の知見が通用しない場面が頻発するため、これに対応するには、現場における透明性のある情報共有と迅速な意思決定が重要です。方針管理や品質保証体系がそのためのベースとなりますが、不確実性が高まる中、明確な目的・目標を持ち、曖昧さやリスクを織り込んだロバストな判断と意思決定を積み重ね、着実な成果を得ることは容易ではありません。このGDでは、目指すべき事業戦略や機能間連携調整プロセスを所与のものとした上で、これに沿って事業の有機的運営を実現するために、方針管理や品質保証体系をどう進化させる必要があるのか、その成功のポイントは何かについて議論します。

論点

- ① 不確実性が高まる中、方針管理や品質保証体系をベースに、具体的な判断や意思決定を行う難しさはどこにあるのか。
- ② ①の難しさを克服するためには、方針管理や品質保証体系をどのように進化させる必要があるのか。
- ③ ②の進化に取り組む際の成功のポイントは何か。

具体的業務遂行を実現するためのプロセスにおける日常管理の仕組みと在り方

木内 正光(玉川大学 経営学部 国際経営学 教授), 大橋 超(楽天グループ(株) グループ品質部 本部長)

第5班

現在、企業は社会課題の変化や技術革新のスピードが加速する中、顧客と信頼関係を築き、価値を共創し続けることが求められます。組織内においては、多様な現場で顧客との繋がりを意識し、限られた時間の中で質の高い迅速な意思決定や判断を下す必要があります。

第5班では上記の状況において、日常管理の仕組みと在り方について議論を展開します。具体的には、まずは多様な業態(製造業、第三次産業、中小企業など)の現場において、実際に起こっている現象を共有します。次に、現場において業務遂行を実現するためのプロセスに焦点を当て、日常管理のあるべき仕組み(PCDA(Plan-Do-Check-Act)、ODA(Observe-Orient-Decide-Act)、P-MOR(Prediction-Monitor-Orient-Revision)などを議論します。さらに、不確実性が高まる状況下において、リーダーシップと自律的意図決定の観点より、組織と個人の裁量を含めた日常管理の在り方について議論します。

論点

- ① 現在の企業環境下における多様な現場で、どのような意思決定が求められるか。
- ② 質の高い意思決定を迅速に遂行するために求められる具体的な業務遂行プロセス/仕組みとは何か。
- ③ 不確実性が高まる中で、リーダーシップと自律的意図決定に基づく日常管理の在り方とは何か。

変革時代の現場力を支えるツールと人材育成

泉井 一浩(京都大学 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授), 上村 裕之(コニカミノルタ(株) 執行役員 品質本部本部長)

第6班

従来の現場力は、標準化された業務を正確かつ効率的に遂行する能力として捉えられてきました。PCDAサイクルを回し、品質を維持・改善する力が現場力の核でした。しかし、顧客との価値共創が求められる時代において、現場力の意味そのものが変わりつつあります。顧客ニーズを察知し、状況の変化に応じて柔軟に判断・行動できる能力が新たな現場力として求められています。この進化を支えるのが、デジタルツールと人材の育成です。AIやデータ分析ツールは現場の判断を高度化し、新たな価値創造を可能にすると同時に、ツールを使いこなす価値共創を支える人材を継続的に育成する仕組みや、そのようなスキルを備えた人材を外部から獲得する仕組みが不可欠です。第6班では、変革時代の現場力と、それを支えるデジタルツール、そして人材の育成・獲得のあり方について議論します。

論点

- ① 変革時代の現場力を支えるためにどのようにデジタルツールを活用していくべきか。
- ② 価値共創の現場力を支える人材に求められるスキル・能力とは何か。
- ③ そのような人材を育成・獲得する仕組みをどう構築するか。

「小さく始めて、強く育てる」中小企業の顧客価値創造と最小構成のTQMモデルとは

丸山 一彦(和光大学 経済経営学部 教授), 窪田 和司(株)羽生田製作所 代表取締役社長)

第7班

SDL環境下では、価値は顧客の使用文脈や経験で変動するため、価値を連鎖的に提供し続け、総合価値を更新するPDCA循環が不可欠です。またそこで行われる意思決定を安定化させる因果構造も外部環境を含み動的に変化するため、正しい判断でも迅速な検証と修正が求められます。この環境では、固有技術を持つ中小企業が単独又は大企業と部分的に連携し、SC全体で価値を創造・最適化できるかが鍵となります。一方で中小企業は迅速な意思決定が可能な反面、判断が経営層に依存し易く属人化や再現性の欠如を招き易いため、適応が偶発的成果に留まり易くなります。重要なのは、顧客価値仮説を起点に軽量な戦略を実行し、PDCAを通じて誤りを早期に検知・修正できる構造を設計することです。そこで第7班では、中小企業の機動力を活かし、顧客価値仮説の設定から戦略選択・検証・修正までを再構成し、意思決定の基準と仕組みを探ります。さらに業務プロセスを可視化・体系化し、中小企業の強みを活かすTQM構築の可能性を検討します。

論点

- ① 小さく産んで大きく育てるための顧客価値仮説は、どのような方針・原則で設計すべきか。
- ② 顧客価値仮説をPDCAの起点とする戦略策定において、戦略の実行・修正・撤退を判断する基準をどのように設定すべきか。
- ③ 中小企業が無理なく導入できる、顧客価値創造を回すための最小限のTQMモデルとは何か。

サービス業、サービス事業、製品使用時、における卓越した顧客体験創出の進め方

水流 聡子(東京大学 総括プロジェクト機構 特任教授), 鈴木 浩佳(トヨタ自動車(株) モノづくり開発統括部 主査)

第8班

サービス業、ソリューションなどのサービス事業や製品使用時の卓越した顧客体験創出を目指すモノづくり企業が、品質経営、すなわち顧客価値創造とそれのためのプロセス構築や組織能力強化をいかに進めていくべきか、それらの問いの答えを、日本がリーダーシップを発揮して国際標準を進めている「サービスエクセレンス」のフレームワークに沿って議論します。サービスエクセレンスとは、カスタマーデライト(顧客の喜び・大喜び)を実現する卓越した顧客体験を生み出すために必要な組織能力のことです。

第8班では複数の事例を参考にしながら、エクセレントなサービスの企画・開発においては何をより重視すべきか、さらには、卓越した顧客体験実現のために必要な設計・運用・評価・改善プロセスについて議論します。その上で、そのようなプロセス実現のために必要な組織能力や組織能力強化のしくみについて検討します。優れた顧客価値の創造を目指している皆様との活発な議論をとても楽しみにしています。

論点

- ① 卓越した顧客体験をもたらすエクセレントサービスの企画・開発において、何をより重視すべきか。
- ② エクセレントサービスは、どのような観点・プロセスで設計・提供し、評価・改善していくのか。
- ③ エクセレントサービスを継続的に提供するために、どのような組織能力や組織能力強化のしくみが必要か。

*組織名・役職は2026年3月現在の表記となっております。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ

お申込み後、シンポジウム参加者様へのご連絡は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）よりメール送信させていただきます。

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 5月21日頃 | 品質管理シンポジウム開催案内・報文集 DL 用 ID/PW ご連絡 |
| 6月1日頃 | 品質管理シンポジウム開催の最終案内 |
| 6月3日 | 報文集 DL 用 ID/PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内） |
| 6月4日 14:00～ | 第121回品質管理シンポジウム開催 |

グループ討論（GD）参加者

GDご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から、グループディスカッションがスタートします。これは、シンポジウム当日の限られた時間の中で、グループ討論をスムーズに進行していくための事前準備という位置づけです。

| | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月23日頃 | 事務局よりGD参加希望者宛に「GD班決定連絡とメンバー自己紹介のお願い」のメールを送信します。メールが届きましたら ① グループ内でメンバー同士の自己紹介をお願いします。 ② GDリーダーを中心に、テーマ・論点についてメンバー間で意見交換※を行っていただきます。GDリーダーによって進行方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、メンバー同士の自己紹介で完結する班もございます。 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※班メンバー間のコミュニケーションは、新規に開設いたします「グループ討論（GD）チャットルーム」にてお願いいたします。詳細は4月23日の「GD班決定連絡とメンバー自己紹介のお願い」のメールにてご案内いたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの（シンポジウムご参加の皆様）

服 装：

- (1) 楽な服装でご参加いただいで結構です。
- (2) シンポジウム1日目の夕方にお渡しする名札は、会期中常に着用ください。
- (3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持 ち 物：

- (1) 名刺（50枚程度）
- (2) 筆記用具
- (3) ノートPCまたはタブレット端末など
 - ・その他（あると便利）：ポケットWi-Fi
 大磯プリンスホテルには無料Wi-Fiもございますが、場所によってはWi-Fi電波が弱かったり、アクセスが集中すると通信速度が遅くなる可能性もありますため、お持ちいただけると安心です。

会場のご案内（1日目）

| | | |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシー：大磯駅から約7分（1,800円程度）、小田原駅から30分（約5,400円）</p> <p>路線バス：「平47 二宮南口行」「磯13 西公園前行」「磯13 大磯駅行（湘南大磯住宅循環）」にて「大磯プリンスホテル入口」バス停下車。そこからホテルまでは徒歩約7分</p> <p>送迎バス：大磯駅発→大磯プリンスホテル行（マイクロバス定員21名）運行予定 （※ 詳細は後日ご案内します）</p> | |
| 6 月 4 日 (木) | シンポジウム受付 13:00～ | <p><u>シンポジウム受付は客室棟1Fのロビーです。</u> 受付で資料をお受け取りになり、会場（メインバンケットホール）へお入りください。 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 会場入口に「ネームプレート（立札）」をご用意しておりますので、お席確保等にご活用ください。</p> |
| | 特別講演・ 基調講演 14:00～ | <p><u>会場（メインバンケットホール）</u></p> |
| | 休憩・ チェックイン 16:45～ | <p><u>ホワイエ（会場の外）</u>に、各自の名札とお部屋のカードキーを並べておりますので、カードキーをお取りください。</p> |
| | 夕食 提供時間 17:00～ 19:30 | <p><u>「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣</u> GDご参加の方は18:30までにご夕食をお済ませください。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声かけください。</p> |
| | GD (1)・談話室 18:30～ 20:00 | <p><u>GD参加者は各GD会場※にお集まりください。（※当日ご案内）</u> GD (1)に続いて、GDメンバー相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみを各会場にご用意しますので、そちらにてご利用ください。</p> |

会場のご案内（2日目）

| | | |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 月 5 日 (金) | 朝食 6:30～8:30 | <u>「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣</u> 時間に余裕をもってお越してください。 |
| | 講演1～3 8:30～ | <u>会場（メインバンケットホール）</u> 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 「ネームプレート（立札）」をお席確保等にご活用ください。 |
| | 昼食 11:55～12:45 | <u>「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣</u> 到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声かけください。 |
| | GD (2) 12:45～15:15 | <u>GD 参加者は各 GD 会場※にお集まりください。</u> (※1日目と同じ会場) |
| | 講演4 15:30～16:30 | <u>会場（メインバンケットホール）</u> 講演4終了後に会場のレイアウト変更を行いますので、お荷物をすべてお持ちになり次のプログラムへご移動ください。 |
| | GD (3) 16:45～18:15 | <u>GD 参加者は各 GD 会場※にお集まりください。</u> (※1日目と同じ会場) |
| | 懇親会（夕食） 18:30～ | <u>会場（メインバンケットホール）</u> |
| | 談話室 19:30～20:30 | <u>「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣</u> 参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。（自由参加） |
| (GD 報告資料作成) 19:30～ | <u>各 GD 会場</u> GD リーダーと記録係は、3日目 GD 報告資料の作成をお願いします。 | |

会場のご案内（3日目）

| | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 月 6 日 (土) | 朝食 6:30～8:30 | 「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣 時間に余裕をもってお越しください。 |
| | チェックアウト 8:00～10:15 | ホワイエ 会場メインバンケットホール入口 カードキー返却ボックスがございますので、3日目プログラム開始前を目途にご返却ください。 *お部屋精算がある場合は、ホテルフロントで直接お願いいたします。 *手荷物は会場メインバンケットにお持ちいただき、貴重品管理はご自身でお願いいたします。 |
| | GD 報告資料配付 8:00～ | Deliveru よりダウンロードしてください。 GD 報告資料は、デジタル配付となります。 当日の朝、Deliveru にアップロードいたしますので、各自ダウンロードしてください。またホワイエ、会場内に QR コードを掲示しますので、モバイル端末からもご覧いただけます。 |
| | GD 報告・ 総合討論 8:30～12:00 | 会場（メインバンケットホール） 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 「ネームプレート（立札）」をお席確保等にご活用ください。 |
| | 昼食 12:00～ | 「かもめ」※会場（メインバンケットホール）の隣 到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員のご案内いたします。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声かけください。 |
| <p>大磯プリンスホテルからの交通機関</p> <p>①シンポジウム終了後、QCS 企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。</p> <p>②大磯駅に向かう路線バス 「大磯プリンスホテルバス停」（ホテルより徒歩7分）もご利用ください。</p> <p>③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。</p> | | |

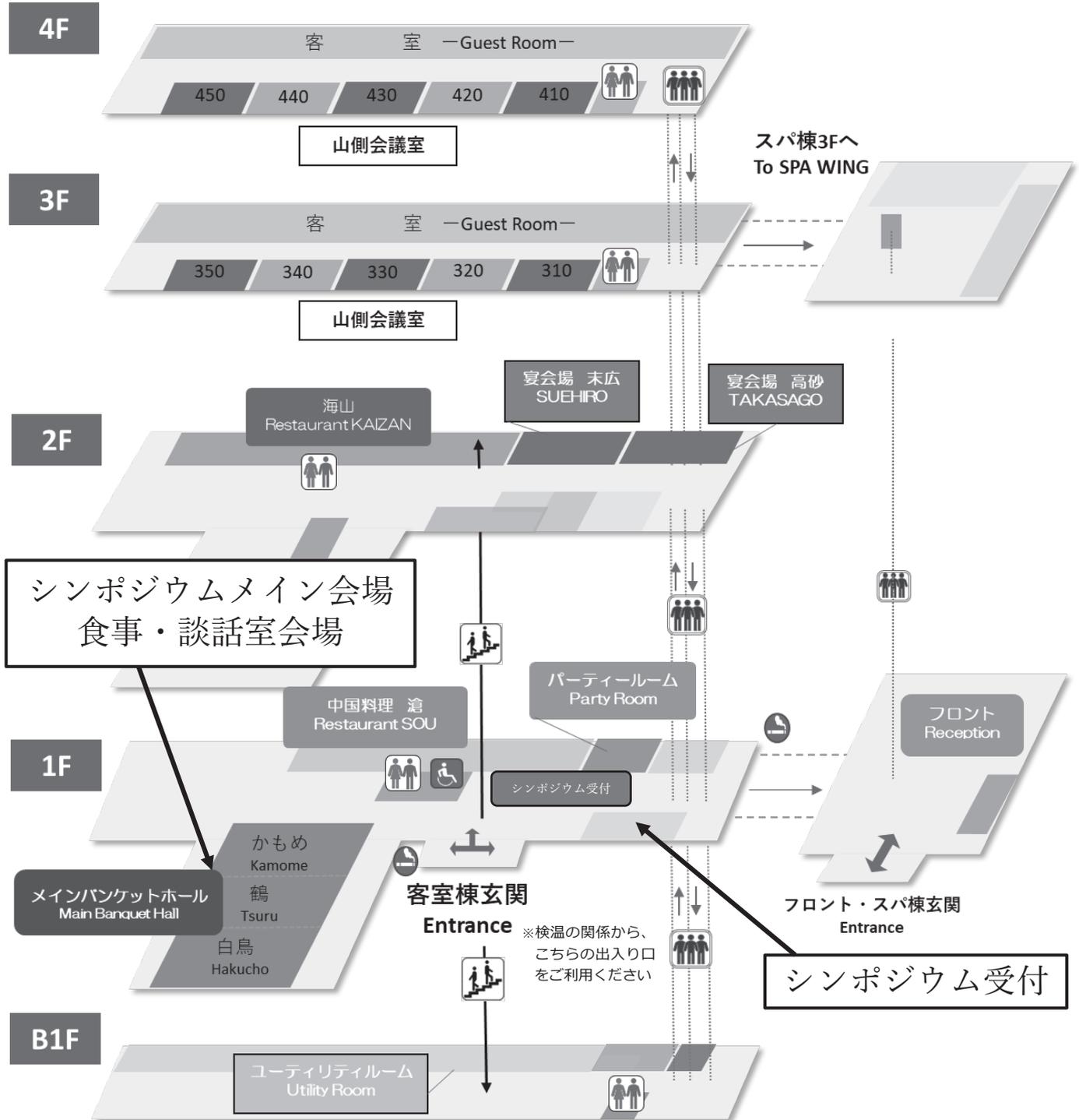
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを介しお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演・基調講演（1日目）、講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴いただけます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

| | |
|----------------|-------------------------------------------|
| 5月14日 | 品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切 |
| 5月21日 | 品質管理シンポジウム開催案内・ご視聴用ID/PWDご連絡 |
| 6月1日 | 品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信 |
| 6月3日 | 参加者様へ Deliveru より ID/PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内） |
| 6月4日 14：00～ | 第121回品質管理シンポジウム開催 ※受付開始は13：00～となります。 |

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

報文集は、動画視聴サイトDeliveruの各イベントページ内にあります「資料ダウンロード」タブよりダウンロードしてください。

※当日に視聴できないとのお問合せを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID/PWD：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が行き届くかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

「見逃し配信」について

ライブ視聴参加の特典として、許可いただいた講演の動画をシンポジウム翌週6月10日（水）13：00～1週間の期間限定にて「見逃し配信」をご視聴いただけます。

ライブ視聴参加者へは、シンポジウム終了後、準備が整い次第、事務局よりメールにてご案内いたします。

その他ご案内

| | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参 加 方 法 | <ul style="list-style-type: none"> ●集合参加……………現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介し PC やモバイル端末等で、特別講演、基調講演・オリエンテーション（1日目）、講演1～4（2日目）、GD報告、総合討論（3日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。 <p>◆シンポジウム申込方法 QCS専用WEBサイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/</p> |
| 参 加 費 | <ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・通常枠の2名分、団体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の1名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200円／1名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000円／1人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2日目）、GD報告・総合討論（3日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50名まで …………… 550,000円 51～100名まで …… 880,000円 101～200名まで… 1,100,000円 ※201名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問合せください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムのGDや総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 <p>◆参加費に含まれるもの 集合参加者の1日目夕食、2日目昼食・夕食、3日目昼食</p> <p>◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の1ヵ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より2ヵ月以内となります。</p> <p>◆キャンセル・返金について 参加形態に関わらず、開催日の5営業日前（5月28日17時）までキャンセルが可能です。 それ以降（直前および当日）のキャンセルについては、有料枠でお申込みの場合でも参加費の返金は致しかねます。 ただし、5営業日前を過ぎて「集合参加」をキャンセル、または当日欠席される場合は、「ライブ視聴参加（見逃し配信あり）」へ振替させていただきます。</p> |

*日科技連よりご請求書を発行いたします。

その他ご案内（集合参加）

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|------|------------------------------------------|------------|---------------------------|------------|-------------------|--------|-----------------------------|---|-----------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 交通費 | <ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り | | | | | | | | | | | | | |
| 宿泊費 * (株) ジャパトラ よりご請求書を 発行します。 | <ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 1人部屋（2泊56,000円）*朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※1部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 宿泊費キャンセル料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">① 5月28日（木）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 無料</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">② 5月28日（木）17：00以降～ 6月3日（水）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の20%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">③ 6月3日（水）17：00以降の解除(④を除く)</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の50%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td> <td style="text-align: right;">- 100%</td> </tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上げます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">● 5月1日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">5月28日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください</td> </tr> <tr> <td>● 5月2日～20日のお申込み→お申込日より3日以内に発送</td> </tr> <tr> <td>● 5月21日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送➡</td> </tr> </table> </div> | ① 5月28日（木）17：00より前の解除 | - 無料 | ② 5月28日（木）17：00以降～ 6月3日（水）17：00より前の解除 | - 旅行代金の20% | ③ 6月3日（水）17：00以降の解除(④を除く) | - 旅行代金の50% | ④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊 | - 100% | ● 5月1日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 | } | 5月28日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください | ● 5月2日～20日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 | ● 5月21日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送➡ |
| ① 5月28日（木）17：00より前の解除 | - 無料 | | | | | | | | | | | | | |
| ② 5月28日（木）17：00以降～ 6月3日（水）17：00より前の解除 | - 旅行代金の20% | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 6月3日（水）17：00以降の解除(④を除く) | - 旅行代金の50% | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊 | - 100% | | | | | | | | | | | | | |
| ● 5月1日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 | } | 5月28日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください | | | | | | | | | | | | |
| ● 5月2日～20日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 | | | | | | | | | | | | | | |
| ● 5月21日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送➡ | | | | | | | | | | | | | | |
| 宿泊の部屋割 | 部屋割は事務局に一任させていただきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | ① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。 ② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。 ※記載金額はすべて税込みとなります。 | | | | | | | | | | | | | |

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
 〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4階
 TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当：柏木、鶴川
 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8階
 TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

参加者のみなさまへ

日科技連では「あらゆる人権問題の解決は企業の社会的責任である」として人権啓発活動に取り組んでおります。この考え方に基づき、下記のとおり「人権問題に関する発言ガイドライン」を設けております。参加者のみなさまにおかれましても是非ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Ver.1

事業実施における人権に関する発言ガイドライン

I. 事業実施における人権基本姿勢

1. 互いの人権が尊重され、一人ひとりが積極的に参画できる場を創る
2. 人権に配慮した表現・行動を目指す
3. 人権を侵害するような事実が確認された場合は、厳しい処罰を行う
4. 人権侵害の発生を防止するため、適切な予防活動を行う

II. 表現・発言における注意点

- ・ジェンダー、障がい、疾病、職業、国籍、出身地、容姿などに対する差別的な表現の排除
例)「人夫」「特殊部落」「バカチョン」「ジブシー」
 - ・同問題に対し、悪意の有無に関わらず相手が不快に感じる可能性の高い表現の置き換え
例)「めくら判」「片手落ち」「間違いに刃物」「女性や初心者でも手軽に」
 - ・その他、特定団体や特定個人に対する誹謗中傷
- *不適切発言には、わかりやすく（面白く）伝えようとし、揶揄的な表現、例えばなし、個人の価値観の押し付けなどにより、相手に不快感や誤解を与えてしまう場合が多く見られます。

III. セクシュアルハラスメントについて

「行為を受けた人がその行為に対して、どのように感じるか」が判断基準となります。行為者に悪気がない、良かれと思って行った、としても相手が不快に感じればセクシュアルハラスメントに該当します。

- ・男女間の意識のズレ
「これくらいは大丈夫だろう」「相手も許容する準備があった」と思うのは行為者の誤った認識からでの解釈です。女性（或いは男性）参加者が少ない場では特に、マイノリティへの配慮をお願いします。
- ・固定的な性別役割分担意識
未だに補助的な作業を女性に任せる男性優位意識が散見されます。女性側の意識変革も求められますが、女性というだけで常にサポートに回ることはないよう、ご配慮ください。

※ 会場での行き過ぎた営業活動、所属団体の宣伝等も、不信感に繋がりますので、お控えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上

一般財団法人日本科学技術連盟

品質管理シンポジウム会員内規

1. 一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。
2. 品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員1口以上を負担する法人、団体または個人とする。
企業会員：1口につき年額221,100円（消費税込み）
団体会員：1口につき年額128,700円（消費税込み）
 - (1) 会員は年2回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。
企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみ）
団体会員：無料参加枠1名（通常枠）
 - (2) ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。
 - (3) 本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料の配付を受ける。

(2024年4月1日改訂)